

奈良県立美術館

プレスリリース／2021年4月30日

特別展 ウィリアム・モリス 原風景でたどるデザインの軌跡

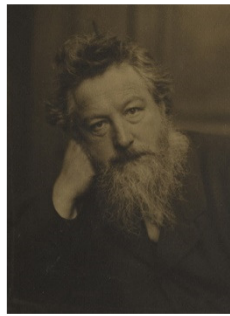
2021年6月26日(土)―8月29日(日) 主催・会場 奈良県立美術館

モダン・デザインの父と称される才人ウィリアム・モリス。その生涯と軌跡をたどる。



左から：図版1《柘榴あるいは果实》1866年頃、図版2《るりはこべ》1876年、図版3《いちご泥棒》1883年
いずれもデザイン：ウィリアム・モリス Photo ©Brain Trust Inc.

展覧会の趣旨



ウィリアム・モリス肖像写真
1886年頃
Photo ©Brain Trust Inc.

芸術家、詩人、作家、思想家、社会運動家など、多彩な分野で活躍したウィリアム・モリス（William Morris 1834～1896）は、19世紀のイギリスを代表する偉人として知られています。モダン・デザインの父とも称され、芸術と生活の統一を目指してモダン・デザインを提唱したアーツ・アンド・クラフツ運動を先導しました。

本展では、これまで顧みられることのなかったモリスの幼少期や学生時代にはじまり、晩年に至るまで、デザイナーとしてのモリスの生涯を紐解きます。モリスの制作活動は「住まい」「学び」「働いた場所」など、その時々環境と深いつながりをもちました。本展ではモリス自身および彼の仲間たちによるデザイン・工芸作品80点に、写真家・織作峰子氏が撮影したモリスにちなむ風景を組み合わせ、そのデザインの軌跡をたどります。

出品内容

- *ウィリアム・モリスによる作品（壁紙・織物・書籍のデザインなど）45点
 - *モリスの仲間たちによる作品（壁紙、椅子、タイル、ランプなど）35点
 - *写真家・織作峰子〔大阪芸術大学教授〕によるモリスにちなむ風景などの写真 21点
 - *資料映像（動画）2点
- （出展作品は、状況により変更になる場合がございます）

同時開催

【第6展示室】ウィリアム・モリスを愛でた富本憲吉―館藏品から

奈良県出身で近代陶芸の巨匠・富本憲吉（1886～1963）の作品を展示いたします。富本はモリスの芸術思想に傾倒して20世紀初頭にイギリスへ私費留学をし、モリスを日本へ紹介した先達の一人です。洋の東西を越えて近代デザイン・工芸に注がれた情熱をご鑑賞ください。

（ウィリアム・モリス展の観覧券でご覧いただけます）

《参考》

ウィリアム・モリスの生涯

◆少年期から青年期（1834～59）

ウィリアム・モリスは1834年3月24日ロンドン郊外のウォルサムストウで生まれました。父のウィリアム・モリス（同名の父）は株の売買を営む実業家でしたが、1847年に死別します。

1853年、モリスはオックスフォード大学エクセター・カレッジに入学、そこで生涯の友人で協力者となるエドワード・バーン＝ジョーンズ（1833-98）に出会います。1855年、中世美術の勉強のため二人はフランスを訪れ、そこでモリスは建築家に、バーン＝ジョーンズは画家になる決心をします。

翌年モリスは建築事務所に入所したものの長くは続かず、バーン＝ジョーンズが師事するラファエル前派の画家ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ（1828-82）の門下生となり、画家になる志を持つようになります。

1858年、建築事務所で知り合ったフィリップ・ウェブ（1831-1915）に、のちの妻 ジェイン・バーデン（1839-1914）との新居「レッド・ハウス」の設計を依頼します。レッド・ハウスはロンドン南東のベックリーヒースに作られ、モリス自らも内装を手掛けます。また、バーン＝ジョーンズやロセッティからも協力しました。この頃、モリスは装飾美術に身をささげる決心をしました。1859年、ジェイン・バーデンと結婚。

→ 参照：広報用図版6

◆レッド・ハウスからクイーン・スクエアへ（1859～71）

モリスは1860年にレッド・ハウスに入居します。レッド・ハウス建設の経験を通じて、1861年、モリスは仲間たちとモリス・マーシャル・フォークナー商会をロンドンのレッド・ライオン・スクエアに設立し、壁紙・家具・ステンドグラスなど、本格的に装飾美術の仕事を展開していきます。1865年にはロンドンのクイーン・スクエアに移転した商会の建物に自分も転居し、活動は一層活発化します。

また、1868～70年に長編物語詩『地上樂園』を発表、モリスは詩人としても名声を得ます。

→ 参照：広報用図版1

◆ケルムスコット・マナー（1871～96）

1871年、ロセッティと共同でテムズ川上流のケルムスコットに「ケルムスコット・マナー」を別荘として借ります。ここはモリスが最も愛した家となり、モリスはケルムスコットを「地上の天国」と呼びました。しかしロセッティとの関係は徐々に悪化し、ロセッティは1874年にケルムスコット・マナーを去ります。

1875年、モリス・マーシャル・フォークナー商会を解散し、単独でモリス商会を設立しました。この頃から織物（テキスタイル）にも力を入れていきます。また、1877年には古建築物保護協会を設立するなど、社会活動にも力を入れていきます。

→ 参照：広報用図版2

◆ケルムスコット・ハウスとマートン・アビー（1878～96）

1878年、ロンドン西部のハマースミスに転居し、ケルムスコット・マナーにちなんで「ケルムスコット・ハウス」と名づけます。1881年にはロンドンの南、テムズ川の支流沿いのマートン・アビーに工房を作って染色の実験を重ね、その後、1882年にインディゴ抜染法を完成させました。

→ 参照：広報用図版3

1887年にはモリスの芸術思想と実践の影響を受けて、アーツ・アンド・クラフツ展覧会協会が設立されるなど、モダン・デザインにおけるモリスの重要性はますます高くなります。本展には同時代に活躍したモリスの仲間たちによる作品も出品されます。

→ 参照：広報用図版5

◆ケルムスコット・プレス（1891～96）

晩年のモリスが情熱を傾けたのが書物芸術です。「美しいもの」としての理想の書物を作るため、1891年に私家版印刷工房「ケルムスコット・プレス」を設立し、活字・用紙・挿絵・装丁にこだわりぬいた書籍を出版しました。その中には、自ら執筆したファンタジー小説『世界のかなたの森』（邦訳・晶文社刊）もあります。

→ 参照：広報用図版4

▼展覧会の基本情報と来館案内

主催・会場	奈良県立美術館 〒630-8213 奈良県奈良市登大路町 10-6 TEL 0742-23-3968/FAX 0742-22-7032/テレホンサービス 0742-23-1700 公式ホームページ http://www.pref.nara.jp/11842.htm ツイッターアカウント @ArtmuseumN フェイスブック @narakenmuseum
会期 開館時間・休館日	2021年6月26日〔土〕—8月29日〔日〕 9時～17時（入館は閉館の30分前まで） 毎週月曜（8月9日は開館）と8月10日〔火〕は休館
観覧料	一般=1,200円、大・高生=1,000円、中・小生=800円 *新型コロナウイルス感染症拡大防止のため団体料金の設定はございません。 *身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳をお持ちの方と介助の方1人、外国人観光客（長期滞在者・留学生を含む）と付添の観光ボランティアガイドの方は、無料でご観覧いただけます
企画協力	株式会社ブレントラスト
後援（申請中）	NHK奈良放送局、奈良テレビ放送株式会社、株式会社奈良新聞社、西日本旅客鉄道株式会社、近畿日本鉄道株式会社、阪神電気鉄道株式会社、奈良交通株式会社、奈良県商工会議所連合会、奈良県商工会連合会、奈良県中小企業団体中央会、株式会社南都銀行、(一社)日本旅行業協会、(一社)全国旅行業協会奈良県支部、(一社)国際観光日本レストラン協会、(一財)奈良県ビジターズビューロー、(公社)奈良市観光協会、奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合
交通案内	近鉄・奈良駅 1番出口から奈良公園に向かって徒歩5分 JR・奈良駅 東口バス乗り場から奈良交通バスにて5分「県庁前」下車

▼会期中の催し

展覧会関連 当館主催事業	◆講演会「ウィリアム・モリスがめざしたもの」 講師：菅谷富夫氏（大阪中之島美術館 館長） 日時：7月11日（日）14時～ 場所：当館 1F レクチャールーム（定員30名） ◆美術講座「美術とデザイン—近代から現代へ」 講師：安田篤生（当館学芸課長） 日時：8月1日（日）14時～ 場所：当館 1F レクチャールーム（定員30名） ◆当館学芸員によるギャラリートーク（作品解説） 7月3日・7月24日・8月21日（いずれも土曜）14時～ ※ご参加には観覧券が必要です。 ※講演会・美術講座は予約制です。聴講申し込み方法などは当館ホームページでご案内します。 ※新型コロナウイルス感染症の状況によってイベントの実施方法などを変更する場合があります。
連携展示	連携展示 〈1F ギャラリー/入場無料〉 奈良・町家の芸術祭はならあと 10年のあゆみ—地域×環境×アート 奈良県を代表する芸術祭「はならあと」の過去10年間のあゆみと、2020年より環境問題に焦点を当てた「地球に優しいエコロジカル」な運営の取り組みの紹介。

取材のご依頼
広報に関するお問い合わせ

奈良県立美術館（展覧会企画担当：学芸課長 安田篤生）
〒630-8213 奈良県奈良市登大路町 10-6
TEL 0742-23-3968 FAX 0742-22-7032 museum@mahoroba.ne.jp

▼広報用図版（ご希望の画像の番号（1～5）をお知らせください）

*必ず下記の**キャプション（太字下線は必須）**もご掲載ください。掲載にあたり作品のトリミングについては応相談。(6)はトリミング不可。

<p>(図版1) <u>《柘榴あるいは果実》</u> デザイン: ウィリアム・モリス Photo ©Brain Trust Inc. 1866年頃 木版、色刷り（壁紙） 75 x 56.5 cm モリス・マーシャル・フォークナー商会</p>		<p>1861年、仲間たちとステンドグラス、家具などを制作するモリス・マーシャル・フォークナー商会を設立し、本格的に装飾美術に取り組み始めました。これはモリスの初期作品に属する壁紙のデザインです。</p>
<p>(図版2) <u>《るりはこべ》</u> デザイン: ウィリアム・モリス Photo ©Brain Trust Inc. 1876年 木版、色刷り（壁紙） 84.5 x 55.5 cm モリス商会</p>		<p>長編物語詩『地上楽園』（1868-70）で詩人としても名声を得る一方、1875年に単独経営によるモリス商会へ改組してから、活動は一層活発になります。この作品のように、モチーフを反復させる壁紙のパターン・デザインにも洗練に磨きがかかり、円熟味を増してきます。</p>
<p>(図版3) <u>《いちご泥棒》</u> デザイン: ウィリアム・モリス Photo ©Brain Trust Inc. 1883年 木版、色刷り、インディゴ抜染、木綿（内装用ファブリック） 92.5 x 98 cm モリス商会</p>		<p>単独経営のモリス商会になってからは染色にも力を入れます。これは藍（インディゴ抜染）に赤と黄を組み合わせた色鮮やかな労作で、モリス商会のプリント木綿の中でも高い人気を得ました。</p>
<p>(図版4) ウィリアム・モリス著『世界のかなたの森』 ウィリアム・モリス Photo ©Brain Trust Inc. 1894年 21 x 14.8 cm ケルムスコット・プレス</p>		<p>1891年、書物の私家版印刷工房ケルムスコット・プレスを作り、装丁にこだわりぬいて「書物の芸術」を追究していきます。『世界のかなたの森』はモリス自身が書いたファンタジー小説で邦訳（品文社）もあります。</p>
<p>(図版5) <u>《卓上ランプ》</u> デザイン: ウィリアム・アーサー・スミス・ベンソン ランプシェード: ジェームズ・パウエル Photo ©Brain Trust Inc. 20世紀初頭 銅、真鍮、オパールセントガラス 高さ 42.5 x 幅 28cm（ランプシェード部分直径 10cm） W・A・S・ベンソン社</p>		<p>19世紀後半のイギリスで興り、モリスが先導した「アーツ・アンド・クラフツ運動」は、芸術的な職人の手仕事で日常生活に美的な豊かさをもたらそうとしたもので、本展にはこうしたモリスの仲間たちの作品も出品しています。この作品のオパールセントガラス（乳白色ガラス）はフランスのガラス工芸の巨匠ルネ・ラリックも使っています。</p>
<p>(図版6) 織作峰子(撮影) 《赤煉瓦の館》 Photo ©Mineko Orisaku, ©Brain Trust Inc. Thanks to the National Trust Red House, Bexley, London タイプCプリント 55.5 x 84.1cm</p>		<p>写真家・織作峰子氏が撮影したモリスにちなむ風景の一つで「レッド・ハウス」の外観。レッド・ハウスはモリスが20代後半を過ごした自宅兼工房で、内装にはモリスも参加しました。デザイナーとしてのモリスの原点と言える場所で、今も保存されています。</p>